



# 運行1年地域の足育

京丹波町新戸の小泉妙子(75)は週1回程度、今年4月から園部方面の「コムニティ・カー」を利用して、運転免許が、ドライバーや予約を受けるスタッフはみなボランティアだ。

乗ら込むと、南丹市園部町内にある「整形外科」の診察を受けた。後、郵便局やスーパーなどを約1時間半かけて巡る。「車を移動手段として、感謝の手をスタート。利用者の希望の道もよく分かるのは、同じ

京丹波町新戸の小泉妙子(75)は週1回程度、今年4月から園部方面の「コムニティ・カー」を利用して、運転免許が、ドライバーや予約を受けるスタッフはみなボランティアだ。



①自宅前で車に乗り込む竹野コムニティカーシェアリングの利用者(京丹波町新水)  
②同乗者同士笑顔であいさつする旭サポーターの利用者(岡市旭町)

## 住民同士送迎「会話も楽しく」

地域の住民同士だからこそ、自分の好きなものを選ぶ。重なる時間と口をそろえて、互いの体の調子や家庭の出来事など話題は尽きない。地域住民同士の小さな交流拠点は広がっている。

ある日の「旭サポーター」。「岡市千代川町のスーパーへと向かう車中、後部座席に乗り合わせた加賀紀代さん(75)旭町西嶋1と藤原弓子さん(82)同町宮元川が、会話を花を咲かせている。利用が大半を占め、行く先ごとに乗り合いとなる。2人と同じ町内とはいえ、別の地区で暮らしており、この買い物は「気遣いなく、

乗ら込むと、南丹市園部町内にある「整形外科」の診察を受けた。後、郵便局やスーパーなどを約1時間半かけて巡る。「車を移動手段として、感謝の手をスタート。利用者の希望の道もよく分かるのは、同じ



住民ボランティアが担う送迎サービスは、利用者との近しさと、金銭負担の少なさが大きなメリットだ。半面、人口減や高齢化もあり、長期的に安定して運行を続けるには、支えとなる人材確保が課題となる。

竹野地区は初年度の利用者登録者が約30人、うちドライバーと事務スタッフ6人。ほぼ連日予約が入り、急な予約にはLINEで連絡を取り合い、担当を決める。旭町は利用者30人に対し、ドライバーとスタッフ9人。利用率は週によって異なるが、同自治会の川勝香苗さん(50)は「予約の傾向をつかみ、ドライバーの負担が偏らないようにしている」と話す。今後、竹野地区では高齢

## 人材確保が課題

を勧誘しようとしても、事故を起さずしてしまわないか心配したり、ボランティア自体に抵抗感があったりして、断られるケースが多いという。

竹野活性化委員会の中西和之代表(75)は「運営側が利用者として後部座席に乗ることもある。地域の助け合いの輪が少しでも広がれば」と期待する。